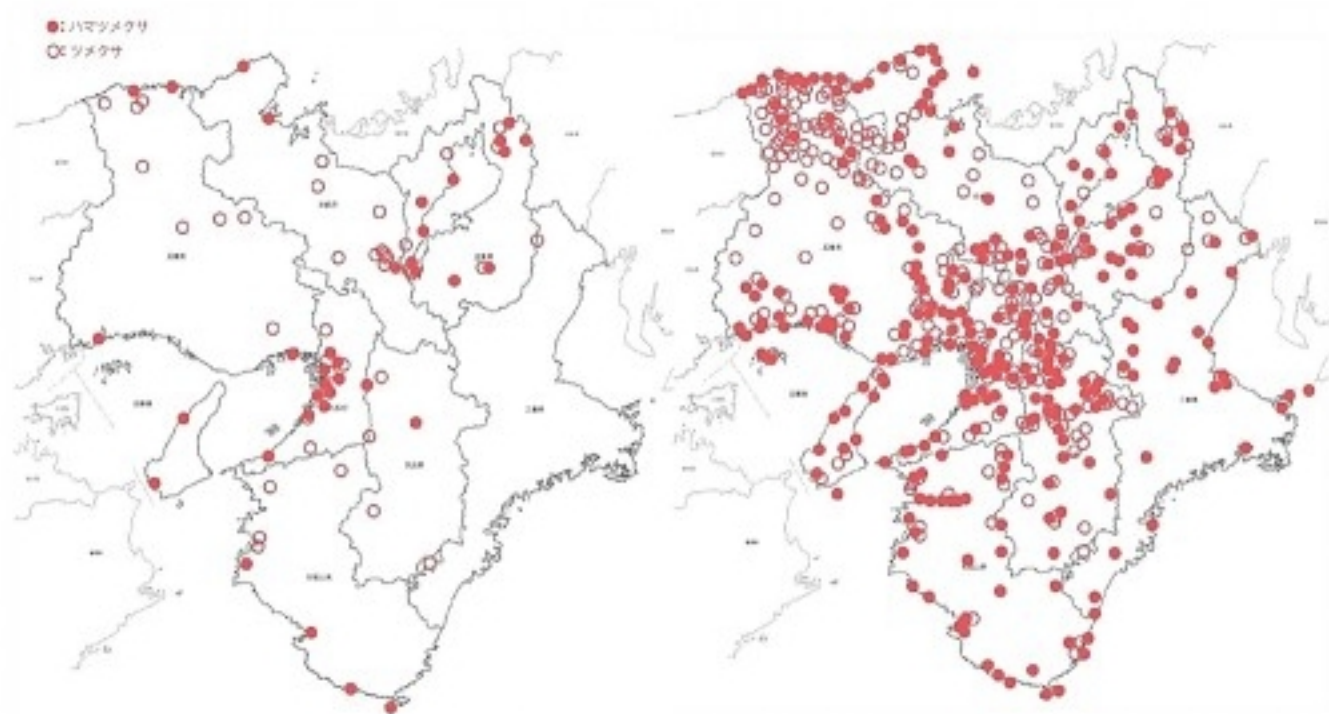


# 都市化で拡大 ハマツメクサ分布地

## 藤井俊夫 主任研究員



### ひとく 研究員 だより



ハマツメクサを赤丸、ツメクサを白抜きで表した分布図。左が1980年以前、右が同年以降の分布

春の七草のハコベに似た花をつけ、葉が鳥の爪のよう



ハマツメクサ



ツメクサ

に「ツメクサ」の2種類があります。両種は種子の表面に突起があるかないかで識別します。

次に近畿地方における2種の分布を過去の標本および現地調査で得られた結果を基に作成しました。1980年以前の分布図では海岸性のハマツメクサは海岸部を除けば、旧街道や伊吹山周辺でしか見られなかったのに対しツメクサは内陸に普通に見られます。80年以降の図では、ハマツメ

10年近く前、駅のプラットフォームで電車を待っていた時にふと足元を見ると、海岸に生えているはずのハマツメクサが目にとまりました。海岸から30mも離れた内陸の駅構内で見られるのを疑問に思い、その後、注意して観察するとハマツメクサはプラットフォームの点字タイルの隙間に集中して見られることがわかりました。

都市化の象徴としてコンクリートやアスファルトの道路が整備され、生活が便利になりましたが、その影響を受けてありふれた雑草が人知れず、違う植物に置き換わっていく現状が浮き彫りになってきました。

R福知山線沿いの半数以上の駅でハマツメクサが見つかりました。一方、内陸に普通に分布するはずのツメクサはほとんど見つかりませんでした。両種の間には生育環境、特に根

この2種には土壌の基質や水分条件に対して差が認められ、ハマツメクサは水分条件の悪い海岸といった過酷な環境に適応し、ツメクサは水分条件が良好な土壌に適応しているものと考